

第1回 有識者等懇談会（伏尾台地域）議事次第

日時：7月28日（金）9時半～12時

場所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

- 1 「テーマパーク構想」概要説明
- 2 懇談会出席者の紹介
- 3 当懇談会の進め方について
- 4 事前アンケートの概要紹介
- 5 各テーマ別ディスカッション
テーマ①：廃校・空き家の活用施策
（子育てに関連する施策を含む）
テーマ②：地域・学生・若者と連携した持続的な施策
（子育て施策を含む）

小休憩

- 6 テーマ③：交通の利便性向上のための施策
- 7 その他テーマのディスカッション
- 8 本日のまとめ・次回に向けての課題共有

以上



第1回有識者等懇談会 (伏尾台地域)

有限責任監査法人トーマツ
2017年7月28日

本日のアジェンダ

	アジェンダ		想定時間
1	池田市よりご挨拶・懇談会の概要説明		10分
2	懇談会出席者の自己紹介	出席者各位	10分
3	懇談会の進め方	トーマツ	10分
4	事前アンケートの回答紹介	トーマツ	15分
5	テーマ①のディスカッション	全員	30分
6	テーマ②のディスカッション	全員	20分
休憩			5分
7	テーマ③のディスカッション	全員	20分
8	その他テーマのディスカッション	全員	20分
9	まとめ・次回に向けての課題共有	トーマツ	10分
		合計	150分

有識者等懇談会の各回の目標地点について

第1回懇談会

目標地点: テーマパークの素材を数多く引き出す

今回の目標地点

第2回懇談会

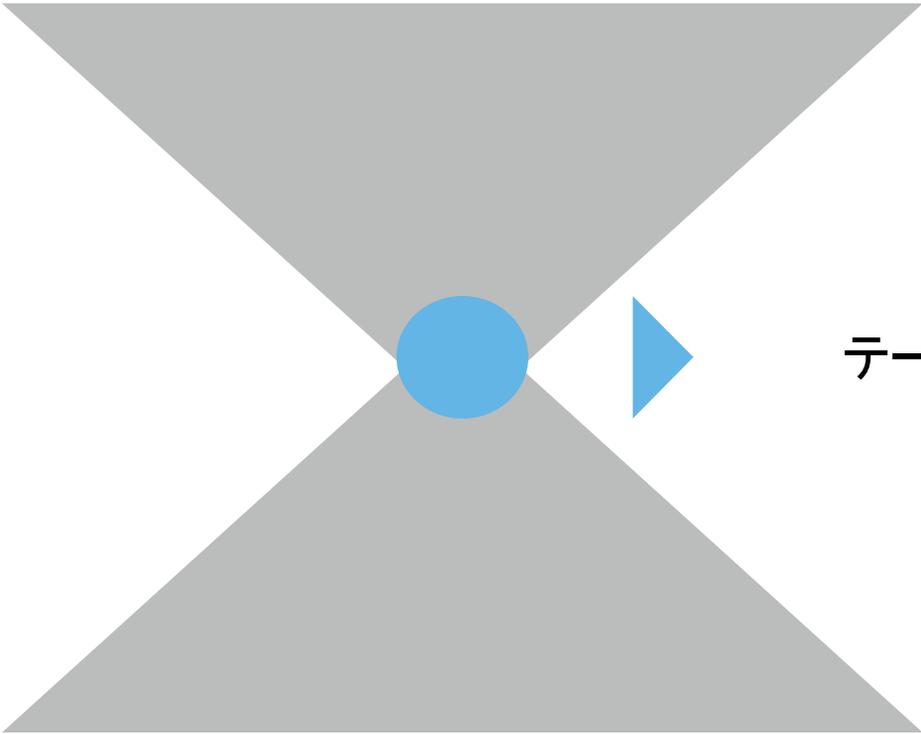
目標地点: 地域プランに関連づけたアクションプランの素材をピックアップ

第3回懇談会

目標地点: 各地域アクションプランの確定

テーマパーク構想の素材とは？

イノベーションの視点



テーマパーク構想の素材

地域・暮らしの視点

事前アンケート結果について 1/4

伏尾台地域の強みと取り組むべき課題について主な内容は以下のとおりです

伏尾台地域の強み

豊かな自然と住環境の良さ

地域コミュニティ力

経験豊富な高齢の人材

特色ある教育施設

伏尾台地域の取り組むべき課題

空き家の有効活用

高齢化への対応

子育て世代の需要の喚起

内外へのプロモーション
活動

事前アンケート結果について 2/4

その他アンケート項目について主な内容は以下のとおりです

子育てと伝統文化のコラボレーション施策

授業に古典落語を取り入れ

伝統産業に要支援の若者
を関与してもらう

地域学習に造園や植木産
業を大きく取り入れる

噺家の学校訪問

廃校・空き家の活用施策

体験型子供ランド

学生のシェアハウス

学生と高齢者の対話施設

Art × 子供での活用

特色のある公園づくり

交流拠点・文化施設 等

事前アンケート結果について 2/4

その他アンケート項目について主な内容は以下のとおりです

交通の利便性向上のための施策

オンデマンド交通導入

無人タクシーの社会実験

乗合タクシー

その他ご意見欄

在日中国人に対しての教育施設が必要

滞在を視野に入れたイベント企画

民泊の推進

夜も魅力あるスポット

事前アンケート結果について 4/4

テーマパーク構想のテーマについて主な内容は以下のとおりです

伏尾台地域の想定テーマ

- ◆子育てにやさしいまち
- ◆ストック再生と新しい住み方、はたらき方の創出
- ◆空き家を有効活用し、街に活気を取り戻す
- ◆人口減少に対して伏尾台の賑わいを取り戻す対策
- ◆新(New)タウンから真(True)タウンへ



キーワード

子育て支援、ストック資産の活用、賑わい、交通の利便性向上

伏尾台地域での議論にあたってのキーワード

地域資源・地域課題
(例)

子育て

交通の利便性向上

地域リーダー

廃校・空き家の活用

地域高齢化

テーマパークを考える
上で意識したい用語
(例)

学生との交流

域外の大企業 &
ベンチャー企業と
の連携

イノベーション・未来・夢

ディスカッションテーマ①

廃校・空き家の活用施策 (子育てに関連する施策を含む)

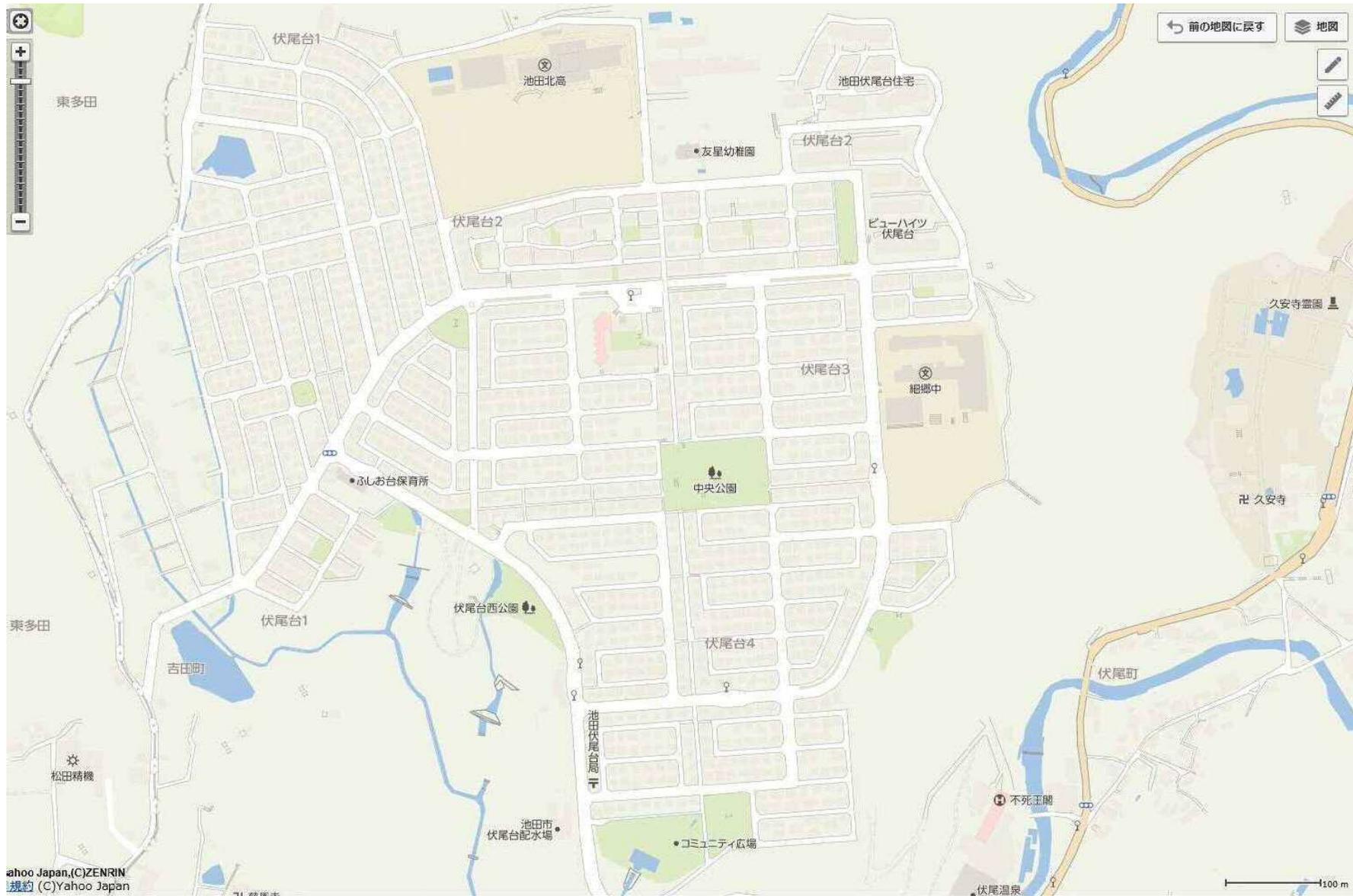
ディスカッションテーマ②

地域・学生・若者と連携した持続的な施策
(子育て施策を含む)

ディスカッションテーマ③

交通の利便性向上のための施策

ご参考: 伏尾台地域の地図





デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人 および DT 弁護士 法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザー等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte (デロイト) は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザー サービス、リスク アドバイザー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスをFortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#) もご覧ください。

Deloitte (デロイト) とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”) ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数指します。DTTL および各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL (または “Deloitte Global”) はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitte のメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第1回 有識者等懇談会（伏尾台地域） （議事要旨）

日 時：平成29年7月28日（金）9：30～12：00

場 所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 後藤健太

地域住民等 6人

池田市 藤田副市長、総合政策部長、都市建設部長、管理部長、教育部長

1. 池田市より挨拶・懇談会の概要説明

2. 藤田副市長より挨拶

3. 「池田のまち みんなまとめてテーマパーク構想」の概要説明

4. 懇談会出席者の紹介

5. 懇談会の進め方

- ・ 現段階では3回の懇談会を予定。今回はその1回目。
- ・ 1回目は発散フェーズ。テーマパークの素材を数多く引き出すことが目標。
- ・ テーマパークの素材には、1つ目にイノベーションの視点、2つ目に地域暮らしの視点が重要。両視点の接点を多く出してもらうことが目的。
- ・ 全3回に亘る有識者等懇談会だが、伏尾台は月に一度創生会議を開催しており、既に様々なアイデアが出ている。第1回は具体的なアイデアの深堀が中心になってくる。地域プランを含めた積極的な意見展開を期待したい。

6. 事前アンケートの回答紹介

- 強み：豊かな自然と住環境の良さ、経験豊富な高齢の人材、地域コミュニティ力、特色ある教育施設
- 取り組むべき課題
 - ：池田北高校を始めとする廃校・空き家の有効活用、子育て世代の需要の喚起、高齢化への対応、内外へのプロモーション活動
- 子育てと伝統文化のコラボレーション施策
 - ：授業に古典落語を取り入れ、伝統産業に要支援の若者に関与してもらう、地域学習に造園や植木産業を大きく取り入れる。瀬家の学校訪問
- 廃校・空き家の活用施策
 - ：体験型子供ランド、学生のシェアハウス、学生と高齢者の対話施設 Art×子供での活用、特色ある公園づくり、交流拠点・文化施設等
- 交通の利便性向上のための施策
 - ：オンデマンド交通導入、乗合タクシー、無人タクシーの社会実験
- その他：中国人を対象とした教育施設、民泊の推進、滞在を視野に入れたイベント企画、夜も魅

力あるスポット

○地域資源・地域課題

：子育て支援、交通の利便性向上、地域リーダー、廃校・空き家の活用、地域高齢化

○テーマパークを考える上で意識したい用語

：学生との交流、域外の大企業&ベンチャー企業との連携、イノベーション・未来・夢

7. テーマ①「廃校・空き家の活用施策（子育てに関連する施策を含む）」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- ・伏尾台小学校開校に先立ち1丁目が開発され190軒ほどの住宅が建ったが、現在、その1丁目地域に空き家が集中。働き盛りの時に伏尾台に越してくる人が多いが、高齢になると坂道が多く買い物等に不便で、出ていく人が多い。
- ・自分の家周辺にも5軒の空き家があるが、手放さずに置いておく人が多く、手入れの有無は様々。
- ・1丁目に空き家が集中するのは建築協定がないから。第1期開発であり決まり事もなかった。その辺りから手をつけていくべき。
- ・高齢で施設入居時に空き家で置いておく方が多い。経済的にあまり困っておらず、相続の問題もあまり考慮されていない。
- ・築50年ほどで耐震化もできていないため簡単には売れない。
- ・伏尾台では情報が行き渡りにくい。特に空き家で置いている方には情報が届いていないと思う。
- ・「はぐのさと」は創生会議の中で付けられたネーミング。世代間の交流が盛んに行われる拠点になれば良いという思い。まちの様々な人が集まりやすいカフェのような機能を持ち、図書館のように本を置き、カフェの外では子供たちが遊べるような場所として旧伏尾台小学校を活用したい。地域内外の方を対象に、魅力を感じてもらうことで住んでもらいたい。
- ・空き家の現状は多くが開発当初に建てられた物で、そのまま販売するのは難しい。あくまでも住宅地なのでまちづくりのために空き家を活用するというのはイメージしづらい。まちの景観を壊すような奇抜な建物にイノベーションするのはイメージしづらい。
- ・空き家の単体での活用ではなく、まち全体で小学校跡地等も含めてシェアハウス等での活用が考えられる。
- ・住民の人を集めて全てのイベントを旧伏尾台小学校で行いたい。
- ・6月にスマイルキッチン（こども食堂）が開催。細河からも来客があり、毎回全70食売切れ。
- ・子供たちは旧伏尾台小学校が懐かしく、遊びたい。
- ・交通手段の確保が必要。

8. テーマ②「地域・学生・若者と連携した持続的な施策（子育て施策を含む）」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- ・旧伏尾台小学校の跡地は、子供に集まってもらい、皆で何かを達成してもらえる場所。
- ・学生に主導してもらい、簡単な工作、迷路づくり、おもちゃづくり、体を使って絵を描く体験などを想定。
- ・学生に遠方から毎日通ってもらうよりは、空き家を活用して住んでもらう。

- ・伏尾台地域には、学校は廃校も含めて4校。ほそごう学園に学校運営協議会を設置。
- ・現在は子供が地域に出かけて地域学習を行い、その中で様々な学びを得ている。また学校の植木の手入れを地域の方にしてもらおうなどの交流もある。
- ・中学生はクラブ活動、小学生が思う存分遊べる場所として旧伏尾台小学校の存在はあり難い。これからの成長に繋がる学びがたくさんある。

◇伏尾台の特徴を活かし、学生との接続性を高めていく仕掛けについて

- ・接続性が高い国は、中国。世界の経済の中でポジションを上げている理由は、中国が100か国もの国との接続性があるから。池田市も接続性を高める必要がある。
- ・伏尾台が他の地域との差別化を図ることで、他の地域との接続性を高める。
- ・イベントを行う上での持続可能性も大事。
- ・例えば「教養が高い」等、池田市が近隣の市と違う大きなパッケージを作る。
- ・伏尾台に引っ越してきた子育ての2回転目に向けた核となる施策が必要で、その役割を池田北高校に期待。
- ・現在池田北高校には3年生だけが在籍しており、卒業に向けてしっかりと送り出そうという動きがある。
- ・伏尾台地区に住んでいる1・2年生の高校生は大阪府下の他の高校に進学している。

◇域外の学生との交流について

- ・現状、学生が来て交流していることはない。教師をめざしている教育大の学生が1人、活動してくれている程度。

◇伏尾台地域の他との差別化について

- ・大学生・伏尾台双方にメリットがあり、他にないものをめざす。
- ・グローバルな目線は必要。学生といっても留学生をターゲットにするのが良いのでは。
- ・学習指導要領が変わり英語が入っている。小学4年生から中学3年生までOST(Online Speaking Training)を導入し、インターネットを利用しつつ、直接フィリピン在住の方と年間30分×10回英会話に取り組んでいる。
- ・伏尾台の生徒数・クラス数の減少という視点でも取り組んでいかなければならない。

◇空き家イノベーションに関する他事例について

- ・伏尾台に限らず、自分が住んでいない空き家を売るのは難しく深刻な課題。住宅は住宅として利用するのが良く、貸すことで固定資産税分くらいは賄える。ただし、思った値段で売れないという問題や権利的な問題もある。
- ・権利の点では、司法書士・行政書士に無料で相談できる場を設ける等の取り組み。
- ・買う側としては、「子育てがしやすい」や「職場が近い」等の動機が必要。貸す側としてはリフォーム等で先行投資をした後に貸すので負担になる。側面支援的な補助制度等があれば良いと思う。
- ・留学生に貸すには家賃の負担力等の問題はある。安くても貸そうという考えであれば成り立つ。
- ・民泊は外国人が泊まりに来るきっかけになる。素泊まりであれば食事を提供するサポート、習字や琴を教えるなどのサービスがあれば良いのでは。人の賑わい・明るさには繋がる。

◇「はぐのさと」賑わいの核となるものについて

- ・NPOの活動や目的別のコミュニティが個々の活動になっているので、ネットワーク拠点を作る。
- ・子育てをしている人が相談に来られる場所を作る。
- ・地域全体で子供を育てる認識を持ち、母親・共働き世代が子育てしやすい社会。
- ・創生会議では住民の方に集ってもらい、校舎の利用について話し合ってもらっている。
- ・「はぐのさと」を作ることの決め手・特色が見えないので、有識者等懇談会で見つけたい。
- ・交通手段は検討中。ホームページは作成済み。
- ・伏尾台はニュータウンではなく、第2次創生期だという認識。
- ・接続性は非常に重要。昔から河川・街道によって繋がってきた。伏尾台は人が集まってくる受け皿になる地。考え方が共通すると感じている。
- ・池田北高校の跡地を卒業生も一般ユーザーも使える施設にしてほしい。高齢者の健康促進、子供たちが運動できる場、スポーツ施設として利用してほしい。
- ・保育園・小学校・中学校・高校が全てあるのが伏尾台。一方で子供を育てる時には習い事をさせるが、伏尾台に住んでいて習い事をさせようと思えば、他に行かなければならない。
- ・子育てに優しいとは安全であること。伏尾台内で送迎があって習い事をするのでできる施設。例えば、留学生に語学を教えてもらうとすれば、留学生も帰りが遅くなるので、泊まる場所として校舎を使う。

9. テーマ③「交通の利便性向上のための施策」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- ・地域内交通に関して、将来困ることについて何かできないかというのが一点。
- ・地域の高齢化に伴い、坂の多い地域なのでバスの利用が多い。地域外との利便性を向上させるために阪急バスに期待。
- ・福祉バスのルートは現時点では便利なルートではないと思うので、利便性の向上が必要。
- ・別の視点としてコミュニティバス等地域内の移動に使えるバスの導入について検討を進めている。
- ・現在の阪急バスにおける伏尾台に関する日中の運行は1時間4便。当初左回りで運行していたルートを住民要望により右回り運行へ変えたように、可能な範囲で利便性を向上させている。デマンド交通は、1970年代に能勢エリアで日本で初めて取り入れた。様々な課題があり、現在は路線バスになっている。中でも大きな課題は、事前に運転手の確保などを行った上で、要望されたルートにおいて安全を確保することへのコストが路線バスの運行コストと大差がなかった点であり、事業としては後者に収れんしていくものと考えている。
- ・運送事業に関わる人手不足の解決策として自動運転は可能性がある。コスト的に厳しい部分に関しても自動運転は解決策の一つになると考えている。運賃の回収方法なども踏まえて、試験的に実験している例もある。
- ・路線バスの停留所に行くまでの坂道が苦痛という声が多い。
- ・カーボランティア（伏尾台内を100円で乗せる）はあるが、気を遣い遠慮される。
- ・箕面の方ではコミュニティバスがあり便利。阪急バスに期待したいところ。
- ・自動運転バスについては「夢を描く」話として挙がっている。伏尾台は交通量も少なく、閉鎖された地域。社会実験の場所としては良いのでは。日本初の事例としていいPRにもなると感じている。
- ・メルボルンやシドニーの中心地は交通費が無料。財政の問題はあるが、市の直営という考えも一つ

の選択肢として検討しては。

- ・高齢に伴う事故を考え自家用車を手放す人が多い。車の維持・管理を協同組合方式でできないか。
- ・協同組合方式に近いが、商店や病院の共同出資で可能かもしれない。運転手の確保の問題はある。
- ・電動アシスト自転車のレンタルはどうか。
- ・福祉バスだとルートが限られるため、小回りが利くコミュニティバスに形を変えて運行。
- ・タクシー会社だとスマートフォンを利用した配車サービスなどもあるので参考に。
- ・住民アンケートではバスが必要とあっても、実際はあまりバスの利用がないなど、アンケートと相違がある。住民の方も公共交通を支えるという意識が必要。

10. その他のテーマのディスカッション

<意見>

◇旧校舎の活用について

- ・旧伏尾台小学校は校舎が2つ。北校舎は現在フリースクールとして活用。南校舎を中心に現在活用を検討中。
- ・池田北高校は4階建てで跡地活用についてご意見をいただきたい。
- ・子育て・高齢者という視点からも幅広くご意見をいただきたい。
- ・鹿児島の方で廃校をホテルに活用した事例を聞いたことがある。
- ・面積が広いということなら、商業施設、物流倉庫等を誘致する方法もある。
- ・子育て世代自体が減っているので、持続可能性を考えると高齢化に対応する施策の方が良い。
- ・ターゲットを決めるよりは、コンテンツを先に決めてはどうか。例えば「教養」を接続性のキーとして、子育て世代を引き寄せる。
- ・都市建設部では住宅事情・空き家・耐震等に対する対策をしている窓口もある。
- ・「〇〇だから住みたいまち伏尾台」の〇〇に何を持ってくるべきなのかが自分自身出てこない。
- ・伏尾台はデータを取りやすいまちだと感じている。空き家の見守り制度のサンプルを取らせていただいたこともある。何かお手伝いできることがあると感じている。
- ・全市民に対する教育施設が必要。

11. まとめ・次回に向けての課題共有

- ・第1回の目標はアイデアの発散であり、目標は達成できたと思う。
- ・第2回は第1回のアイデアをまとめた上で、地域プランと紐づけた形で具体的なアクションプランの土台作成をめざす。
- ・次回の開催は10月上旬を予定。

以上

第2回 有識者等懇談会（伏尾台地域）議事次第

日時：10月16日（月）14時～17時

場所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

- 1 池田市挨拶・実施（予定）事業の説明
- 2 前回の懇談会の振り返り
- 3 第2回の懇談会の目標地点の整理
- 4 各テーマ別ディスカッション
テーマ①：「はぐのさと」構想等について

小休憩

テーマ②：地域交通の利便性向上施策（無人運転&コミュニティバス等）について

テーマ③：空き家の活用について

- 5 その他テーマのディスカッション
- 6 まとめ・次回に向けての課題共有

以上



第2回有識者等懇談会（伏尾台地域）

有限責任監査法人トーマツ
2017年10月16日

本日のアジェンダ

	アジェンダ	
1	池田市挨拶・実施(予定)事業の説明	池田市
2	前回の懇談会の振り返り	トーマツ
3	第2回の懇談会の目標地点の整理	トーマツ
4	「はぐのさと」構想等について	全員
5	地域交通の利便性向上施策(無人運転&コミュニティバス等)について	全員
6	空き家の活用について	全員
7	その他テーマのディスカッション	全員
8	まとめ・次回に向けての課題共有	トーマツ

前回の懇談会の振り返り

テーマパーク構想に資する各地域でのテーマ設定が重要です

細河地域

地域プランの2つの方向性

- ✓ 細河の自然を取り入れたまちづくり
- ✓ 若者が住みたくなるまちづくり

伏尾台地域

地域プランの2つの方向性

- ✓ 子育てにやさしいまち
- ✓ みんなが住みたくなるまち

池田地域

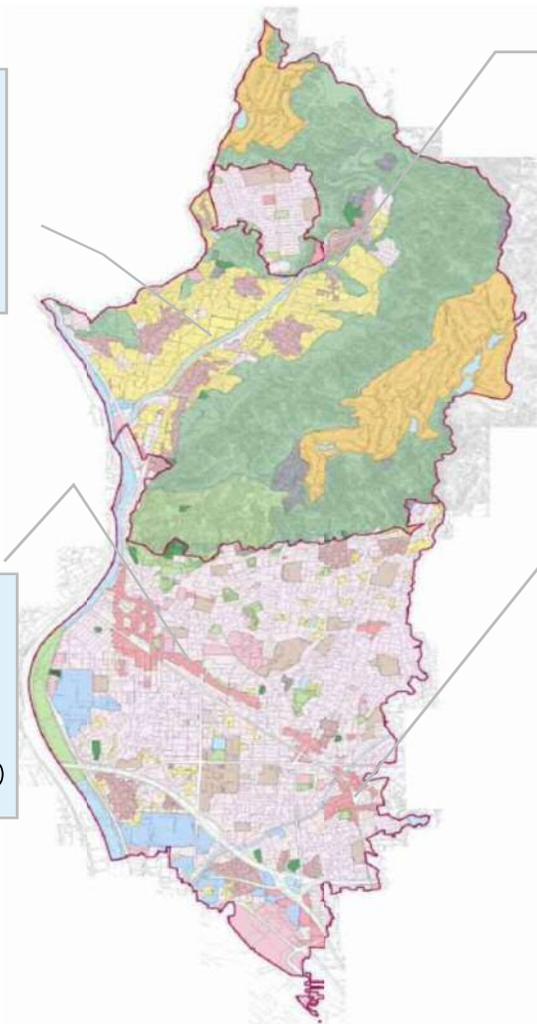
池田DMO構想の方向性

- ✓ 行ってみたいまち
- ✓ 来てみて楽しいまち(住んでみたいまち)

石橋地域

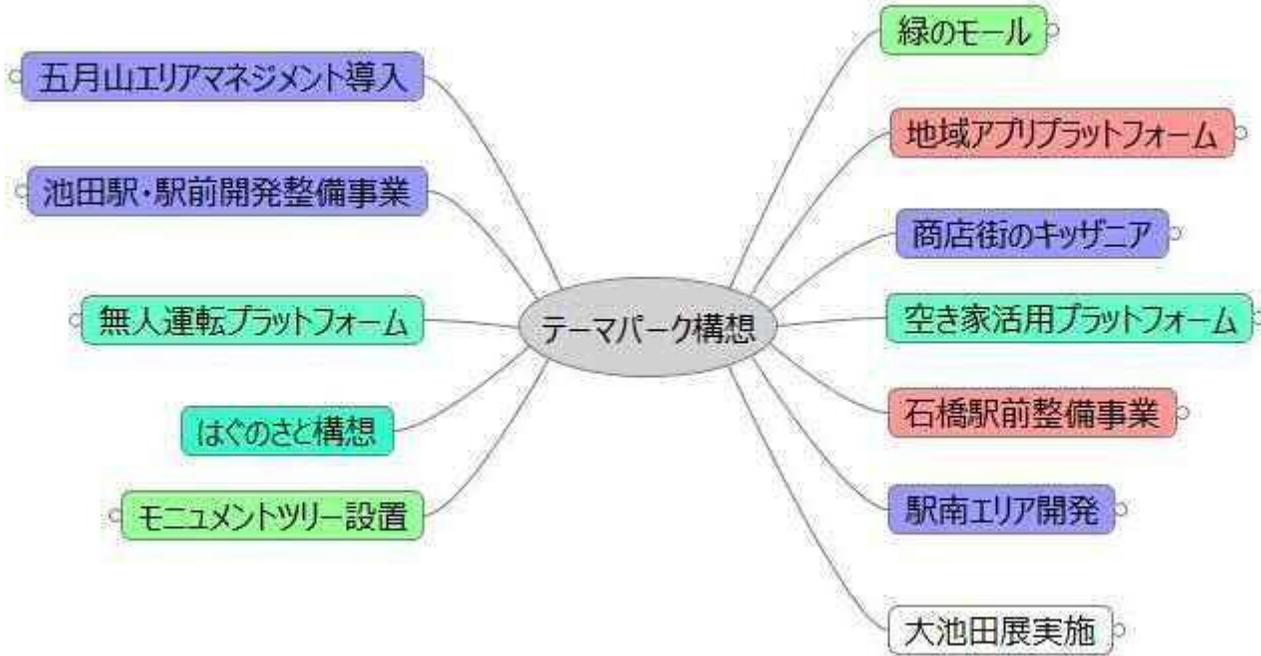
地域プランの2つの方向性

- ✓ 子どもと子育て世代が集まる いしばし
- ✓ 人が集い交流する愛着のある いしばし



懇談会を経て、各地域でのテーマを想定したいと考えています

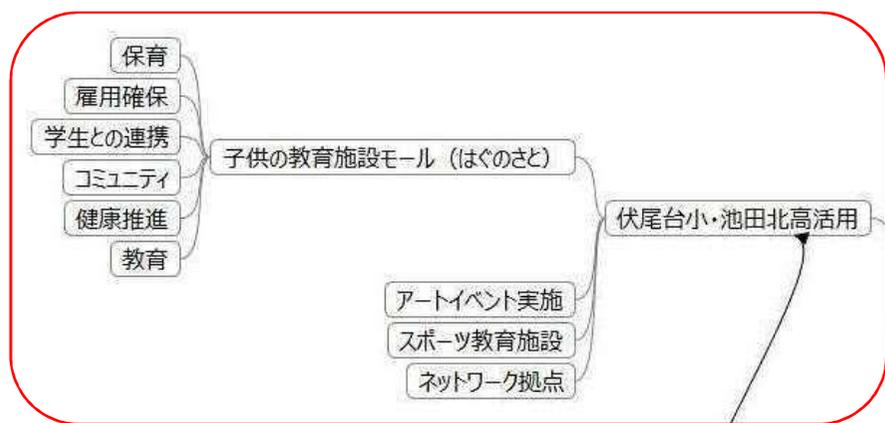
テーマパーク構想メインアイデアマップ



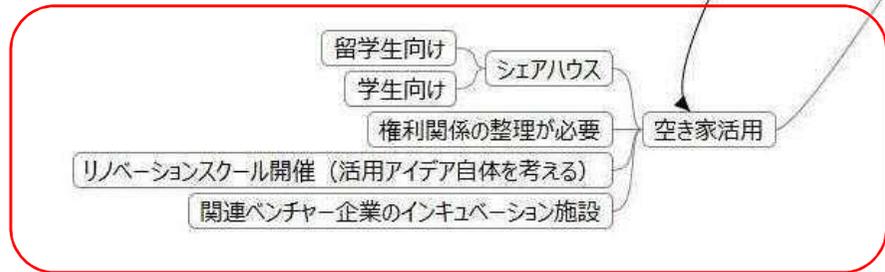
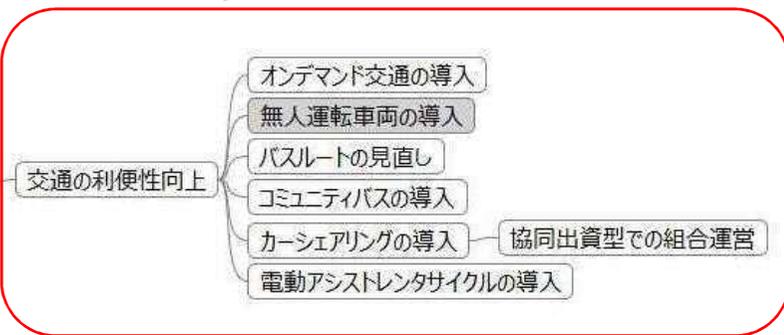
ご参考: 伏尾台におけるアイデアマップ

当懇談会での論点
 ✓ 構想の具体化
 ✓ 構想の実現場所

当懇談会での論点
 ✓ 無人運転車両の是非
 ✓ 実現へのハードルの整理



伏尾台「子育てにやさしいまち」
 「みんなが住みたくなるまち」



ショッピングセンター・コンビニ誘致

当懇談会での論点
 ✓ 活用用途
 ✓ リノベーションのアイデア
 ✓ 学生との連携

第2回の懇談会の目標地点の整理

有識者等懇談会の各回の目標地点について(前回の資料再掲)

第1回懇談会

目標地点: テーマパークの素材を数多く引き出す

済

第2回懇談会

目標地点: 地域プランに関連づけたアクションプランの素材をピックアップ

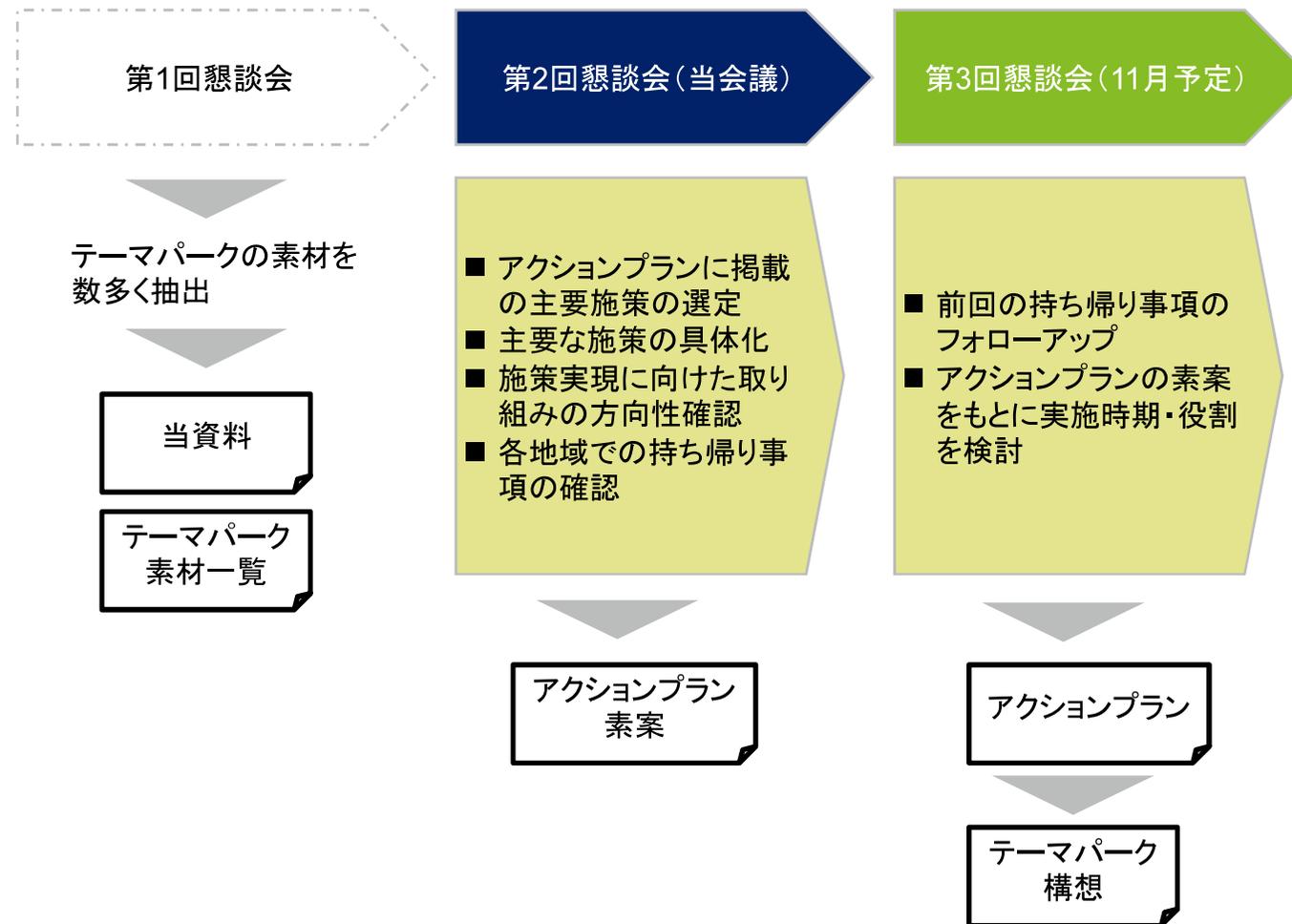
今回の目標地点

第3回懇談会

目標地点: 各地域アクションプランの確定

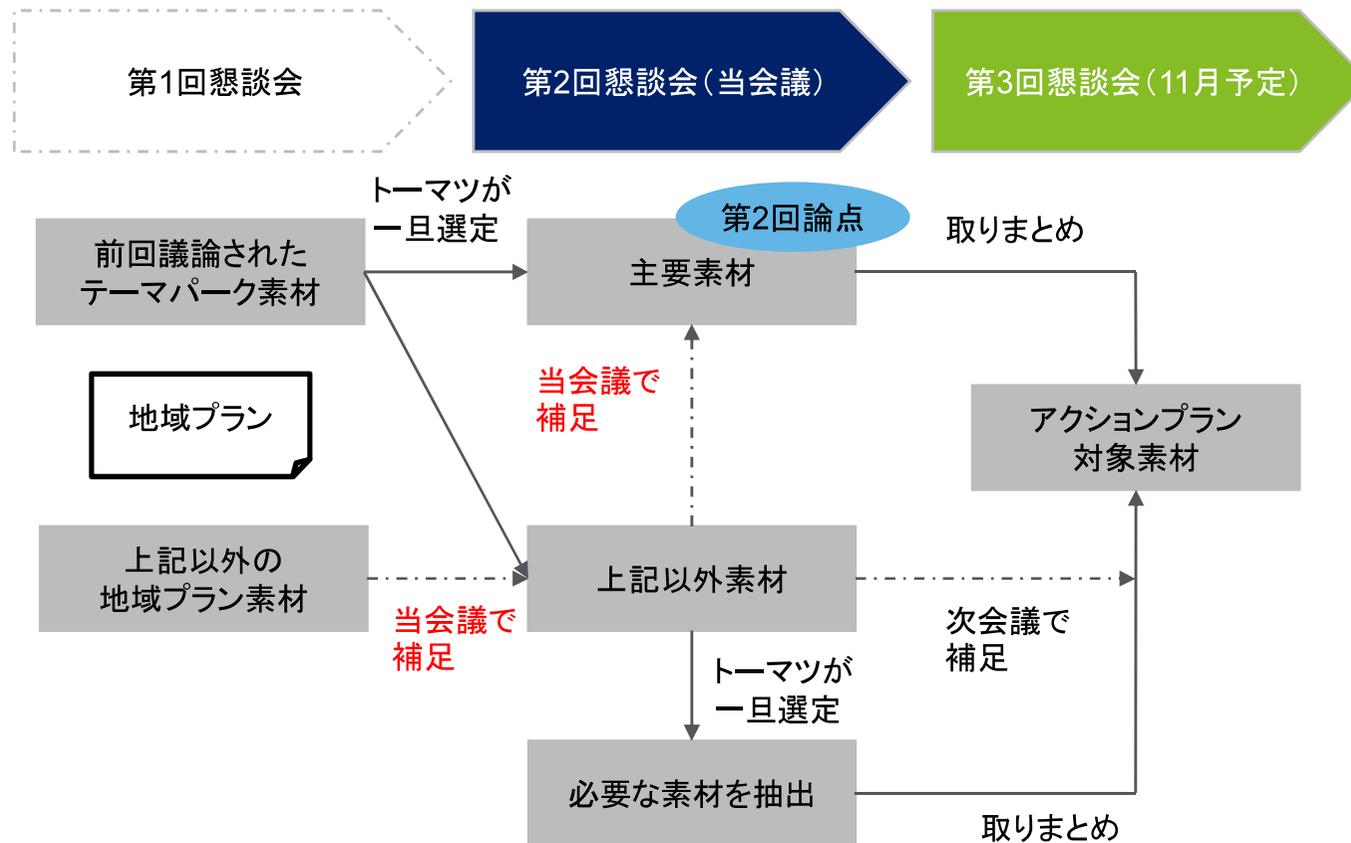
第2回懇談会の目標の確認

テーマパーク構想の主役は地域住民であることを再確認します



テーマパーク素材(施策)とアクションプラン策定までの流れ

アクションプラン策定にあたっての素材は地域プランや当懇談会よりとりまとめます



テーマ①:「はぐのさと」構想等について

想定論点

- コンセプトおよび活用のテーマについて
- 構想の実現場所について
- 池田北高校の跡地活用について

テーマ②: 地域交通の利便性向上施策 (無人運転&コミュニティバス等)について

想定論点

- 利便性向上に向けた無人運転車両の是非について
- 考えられる想定ルートについて
- 実施にあたって考えられるハードルについて

テーマ③: 空き家の活用について

想定論点

- 用途について
- 権利関係の整理について
- リノベーションのアイデアについて
- 学生との連携について

デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人およびDT 弁護士 法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー サービス、リスク アドバイザリー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスをFortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)もご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数指します。DTTLおよび各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL(または“Deloitte Global”)はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitteのメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第2回 有識者等懇談会（伏尾台地域） （議事要旨）

日 時：平成 29 年 10 月 16 日（月） 14：00～16：30

場 所：池田市上下水道部庁舎 3 階研修室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 後藤健太

地域住民等 6 人

池田市 倉田市長、藤田副市長、総合政策部長、都市建設部長、教育部長

1. 池田市（倉田市長）より挨拶

2. 実施（予定）事業の説明

3. 前回の懇談会の振り返り

4. 第2回の懇談会の目的地点の整理

- 第1回目は議論の発散フェーズ。
- 前回の議論の深掘り及びアクションプランの方向性に関するご意見を頂きたい。
- 本日議論した内容を検討材料として持ち帰り、各地域において建設的な議論をしていただき、第3回の際にぜひ発表いただきたい。

5. テーマ①「はぐのさと構想等」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- 平成 26 年の伏尾台小学校跡地活用に関する住民座談会にて、実現可能なアイデアを集約したものが「はぐのさと」構想である。
- 「人を育む」と「ハグする」という思いが込められたコンセプト。あらゆる年代に利用・交流してもらおう場所づくりが目的である。
- 具体策は「カフェ」「子ども図書館」「子育て支援」「生涯学習」「キャンプやバーベキュー」など。
- 伏尾台は、通勤者中心の郊外型ニュータウンがオールドタウンになってきている。
- ゴーストタウンにしてはいけない。ゴールドタウンにするため、伏尾台創生会議 2020 が開始された。
- 伏尾台小学校は昭和 55 年に開校された。アットホームな雰囲気と文化センターの機能が特徴である。
- 「はぐのさと」プラン（案）をすでに住民に公表している。

- 伏尾台小学校を活用して子どもだけではなく、様々なことを「育てる」のがコンセプトである。
- トイボックスの支援でスマイルキッチン（こども食堂）が6月にオープンし、70食が完売する賑わいを見せ、癒しの場所となっている。地域住民を雇用して活性化を模索している。
- テーマパーク構想を機に伏尾台の中だけでなく、視野を広げていきたい。ほそごう学園との共存を検討している。「子育て支援ルーム」「郊外学習ルーム」「トレーニングルーム」「宿泊施設」をつくりたい。小学校の屋上は標高180メートルで、屋上の夜景を見ながらバーベキューするという案もある。
- 子供は意外と自然の中で遊ぶ機会が少ない。小学校の裏手にスペースがあるので、そこを活用できればと考えている。
- 創生会議にある3つの部会の1つ「はぐのさとプロジェクト」は伏尾台小学校跡地活性化に特化したものであるが、これが伏尾台全体の活性化に繋がる。
- 「はぐのさと」には「育む、育てる」と「生活する」という2つの意味がある。子供から高齢者に対して新しい生活の仕方、ライフスタイル「ニューニュータウン」の提案をしていきたい。
- 子供だけにフォーカスしてよいのか。みんなが住みやすいという時の「みんな」とは誰かを確認したい。
- 「みんな」に関しては、ぼやけているとも感じている。テーマパーク構想の会議に出ることで視野は広がってきたと思う。
- 伏尾台創生会議では域外からも人に来てもらうために公園整備に着手している。「6大公園」の活用につき、11月に住民座談会を予定しており、特色のある公園にしていきたいと考えている。小中高生の意見も取り入れる。
- 伏尾台をもっとオープンな環境にするために、住民だけではなく専門家の意見も取り入れたい。
- 子供の他に高齢者にフォーカスしなければならないことが課題である。
- 住民の40%を占める高齢者が住み続けられる環境整備が必要である。生活者目線でまちづくりをすることで、理想的な「はぐのさと」ができると期待している。
- スマイルキッチンの運営継続が将来的なカフェの足掛かりになると思う。地域住民を主体に進めている。
- スピード感を持って、近くで動ける人が集まって実施している状況である。小さくまとまりがちなので、外の知見を取り入れたい。
- フォーカスの広さと特徴がトレードオフ（Trade-off：目標達成のために何かを犠牲にする）する点は、認識が必要である。

◇現状の課題について

- ソーシャルビジネスとして地域課題をビジネス化していく手法を模索している。
- その手段の1つとしてNPO法人の立ち上げを視野に入れている。創生会議自体は方向性を問いかける役割であり、実行するのは別組織と考えている。そこには地域の方だけでなく、域外の方にも関与いただきたい。
- 具体的にはすでにトイボックスが運営しているスマイルファクトリー、スマイルキッチンなどで、トイボックスと協力していきたい。
- トイボックスはまちづくり、ひとづくりのお手伝いをするNPO法人である。

◇空き家について

- 阪急不動産は空き家ビジネスに注力している。例えばこういった事情で空き家になっているのか等の個々の空き家の家主の事情が分かればサポートは可能かと思う。個人情報報の問題もあるので、地域や行政の力を借りたい。
- 「はぐのさと」には民泊の視点でお手伝いしたい。しかし、民泊を実現した事例はない。
- 子育ては10～15年サイクルでニーズが変わる。住宅売買の流通速度が課題である。

6. テーマ②「地域交通の利便性向上施策」のディスカッション

<意見>

◇総則的意見

- 無人運転のための実証実験が複数の地域で実施されている。事故やサイバーセキュリティ対策は必要である。伏尾台はニュータウンでも交通量が少ない点においても実験場として合致すると感じている。
- 実現にあたっては、複数の関連者の関与が必要である。例えば、自動車メーカー、空間マップデータ作成・処理者、研究機関（大学を含む）、地域住民等である。
- 無人運転に関しては、創生会議では夢を語る局面で話題に上ったことがある程度であった。伏尾台は閉鎖されたエリアのため、社会実験場所として都合が良いのではという理由で話題になった。
- 今年8月の夏まつりにおいて、トイボックスの協力で無料送迎10人乗りマイクロバスの運行実験を実施した。アンケートでは、半数以上が「あるとありがたい。」という回答であった。
- 阪急バス本社、創生会議、トイボックス間でミーティングを開催した。地域会議への参加依頼やオンデマンドバスの可能性について協議した。
- 交通インフラは地域医療と密接に関連している。伏尾台には内科はあるが小児科がない。
- 高齢者が何歳まで車を運転できるか。まちの安全を守る青パト運営も高齢化により困難になってきている。
- 高齢者は通常運転手がいるものだという認識なので、無人バスに関しては時間をかけて

意識改革が必要だと考える。

- 実証実験は短期的に行っていくもので、すぐに地域交通の中心になるものではない。
- 懸念事項としては、インパクトが持続可能かどうか、また事業者が継続できるかどうか。ボトムアップと外からの力、両方が必要である。
- 地域の細かいニーズにバス型で対応できるか。タクシー型の方がマッチするかもしれない。
- 継続的な事業採算性の問題もある。
- 「はぐのさと」の入場料を自動運転の運転資金にするという方法も考えられる。
- 無人運転のルートに6大公園を入れてもいいかもしれない。
- 無人運転は伏尾台地域内交通で利用するのか、ネットワーク（例えば伏尾台と池田間）交通で利用するのか整理が必要である。
- ダイハツ等の参画が得られそうであれば、伏尾台で試みるのは良い。
- 発信効果は期待できる。
- ネットワーク交通と認識していた。
- 伏尾台から池田駅、病院、ショッピングセンターに行く方法を想定している。
- 伏尾台地区の中心（銀行、スーパー）までの足も課題である。
- ネットワーク交通で利用するのは技術的な問題で月日を要する。ネットワーク交通に関する課題解決は別の方法で検討する必要がある。
- まずは地域内から利用し始めるのが現実的である。
- コミュニティバス、オンデマンドバス等は市でも課題として認識している。来年度以降に予算を付け検討を開始する。
- 快適な住環境のニーズを伏尾台だけで補うのは難しい。池田全体、関西全体で対処する知恵が必要なのではないか。
- 社会実験を一度やってみて、できることを模索したらよいと思う。それが外の目を入れる一つのきっかけとなるのではないか。

7. テーマ③空き家の活用について

<意見>

◇総則的意見

- 一棟に住んでいる人数も減少、潜在的な空き家が増えていることも課題である。
- 空き家の数は45件であり、ほぼ1丁目に集中している。
- 放置されている空き家（特定空き家）はない。業者利用等管理は比較的しっかりしている。役所は、空き家の持ち主の連絡先も一部入手している。
- 空き家のセミナーを開催予定である。空き家に関する相談を受け付けている。
- 池田北高校の卒業生が子育てのために帰省しているが、空き家に誘導できないか。
- 持ち主を特定できているが、経済的に困っておらず、いずれ子供が使うことも考えてい

るため手放さない。

- 個人間の賃貸ではトラブルを懸念しているので、行政が入ってくると安心との声もある。
- 空き家等対策の推進に関する特別措置法が制定された。池田市では 1,000 所帯が空き家である。
- 空き家の見守り制度を確立しており、利用料は 1 か月に 2,500 円である。
- 伏尾台は同じ時期に建ち、同じように成熟しているのでサンプルを取りやすい。
- 伏尾台で 3~5 件のサンプルをとったが、「相続関係で売れない」「子供が帰ってくるために売りにたくない」「希望額で売れない」ということが理由であった。
- 空き家バンク制度は、行政が関与し、仲介相談するプラットフォームであり、近くつくる予定である。

◇リノベーションスクールの活用事例紹介

- 熱海：アイデアをオーナーにプレゼンし、オーナーが気に入れば工事するという点が特徴である。
- 和歌山：空き家率が 20%を超えている。域外の知見を活用した。
- 北九州：一番盛り上がっている。民間だけで実施した。1 つ事例をつくり、それを広げていった。持続的な人材育成にも役立てている。
- 空き家があっても、困らなければ問題先送りのケースが多い。セミナーやアンケートがきっかけになり得る。空き家のアンケートはまだ取っていないが、今後取っていかねければならないと認識している。
- 人口減が根本原因であり、空き家に住むきっかけづくりが必要である。行政の参画により、家賃・リフォーム費用補助、固定資産税減額などの仕組みがあれば良い。賃貸借の行政サポートは必要である。
- 空き家バンク情報を民間と共有することにより、機会の拡大を期待している。
- 強みのない物件は、魅力付けをし、戦略的に対処していくことが必要である。
- トイボックス自体が空き家で何かやったらいいのかなと思った。
- 島根県海士町「ないものはない」には 2 つの意味がある。「ないものはあきらめよう」と「あるものはある」という意味である。本当に必要なものは存在している。

8. まとめ・次回に向けての課題共有

- 皆様にお願ひしたいのは、地域に持ち帰って建設的な議論していただき、そこで拾い上げた意見を 11 月にお聞かせいただきたい。次回は 11 月 13 日に開催予定。

以上

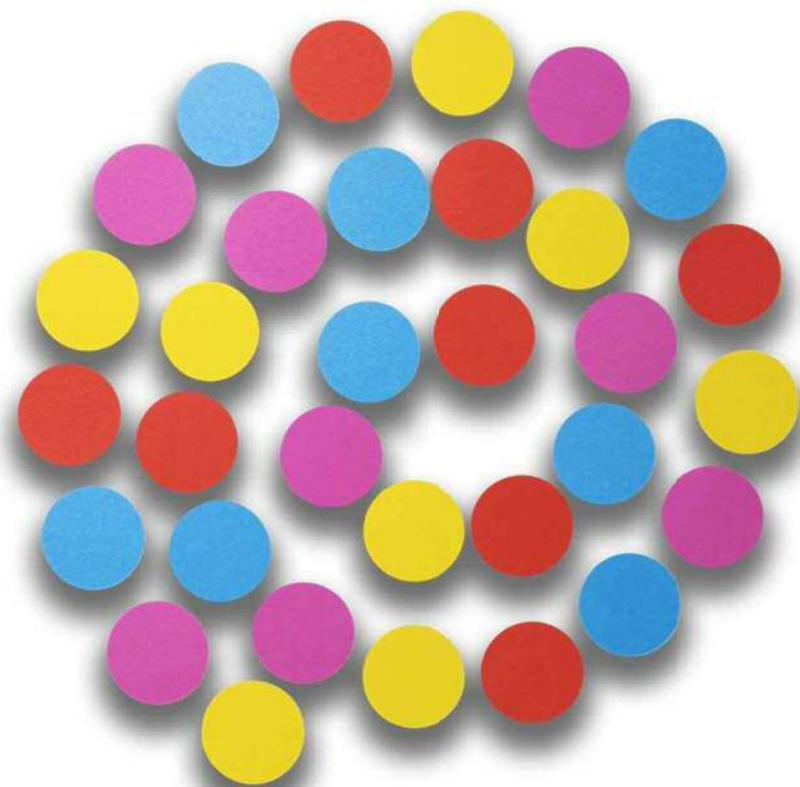
第3回 有識者等懇談会（伏尾台地域）議事次第

日時：11月13日（月）14時～16時

場所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

- 1 池田市挨拶
- 2 前回の懇談会の振り返り
- 3 前回の懇談会を受けた地域の声について
- 4 テーマパーク構想のコンセプトについて
- 5 コンセプトカラー・キーワードについてのアンケート&ディスカッション
- 6 アクションプランの骨子について
- 7 テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ

以上



第3回有識者等懇談会 (伏尾台地域)

有限責任監査法人トーマツ

本日のアジェンダ

	アジェンダ	
1	池田市挨拶	池田市
2	前回の懇談会の振り返り	トーマツ
3	前回の懇談会を受けた地域の声について	全員
4	テーマパーク構想のコンセプトについて	トーマツ
5	コンセプトカラー・キーワードについてのアンケート&ディスカッション	全員
6	アクションプランの骨子について	トーマツ
7	テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ	トーマツ

前回の懇談会の振り返り



地域プランや前回までの懇談会を踏まえた内容は以下のとおり理解しています

これまでの懇談会等の内容は全てリンクしていることが以下から理解できます

地域コンセプト	子育てにやさしいまち みんなが住みたくなるまち
地域の強み	・地域コミュニティ力 ・アクティブシニアの存在 ・ほそごう学園の教育方針
現状の具体的な主要課題	・学校跡地の活用 ・地域内およびネットワーク交通の向上 ・空き家および潜在的な空き家の増加
目指す目的地	定住人口の増加
目的地までの主要施策	・はぐのさと構想の推進 ・新たな地域交通の導入 ・空き家等の活用
主要施策のターゲット層	地域内外の子育て世代、地域高齢者
懇談会でのキーワード	・ゴールドタウン ・はぐくむ・接続性

前回の懇談会を受けた地域の声について



前回の資料(再掲)

以下の事項を是非地域で検討してください

- テーマパーク構想に盛り込む地域のアクションプランについて

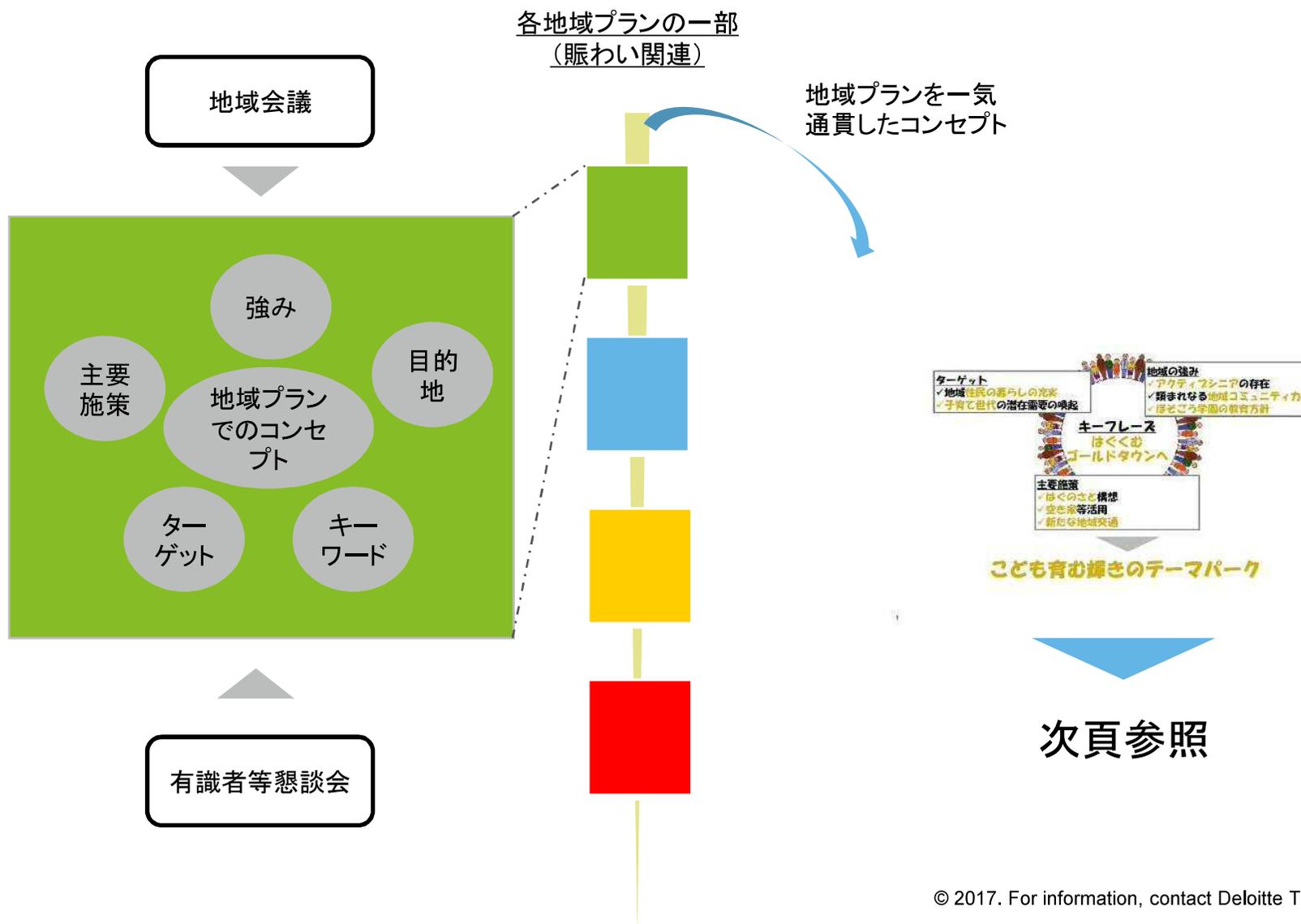
- 本日議論したメインアイデアの実施について

テーマパーク構想のコンセプトについて



テーマパークとしてのコンセプトの必要性

各地域プランや懇談会をベースに横串を通したテーマパークのコンセプト設定が必要と考えています



伏尾台地域のコンセプト 例



こども育む輝きのテーマパーク

テーマパーク構想のコンセプト設定にあたって

テーマパーク構想のコンセプト：
(イメージ)

(検討中)

地域	地域プランコンセプト	テーマパークコンセプト	目指す目的	ターゲット	主要施策	地域の強み	イメージ	
							日本語	色
池田	ハッピーが近いまち。 池田市。	歩いてまわれる彩りのテーマパーク	観光客の回遊	ファミリー女性	回遊性向上（五月山エリアマネジメント）・商店街活性化（キッサニア）・駅のテーマパーク化	ウォンバット・テーマの多様性・2大観光拠点	たのしむ かんじる みつける	虹色
石橋	子どもと子育て世代が集まる いしぼし人が集い交流する愛着のある いしぼし	学生にぎわう情熱のテーマパーク	交流の増加	学生子育て世代	地域アプリ・駅前整備計画	阪大隣接・地域リーダーの存在	あじわう	赤（赤い橋・情熱の石橋）
細河	細河の自然を取り入れたまちづくり 若者が住みたくなるまちづくり	自然ふれあう緑のテーマパーク	自然と賑わいの共生	ファミリー若者	緑のモール・植木の利活用・大池田展	自然・植木産業	ふれあう	緑（自然）
伏尾台	子育てにやさしいまち みんなが住みたくなるまち	こども育む輝きのテーマパーク	定住人口増加	子育て世代高齢者	新たな地域交通・空き家活用・はぐのさと構想	アクティブシニア・コミュニティカ・ほそごう学園の教育	はぐくむ	金（シルバー層が輝く）

コンセプトカラー・キーワードについての アンケート&ディスカッション

アクションプランの骨子について



こども育む輝きのテーマパーク



重点施策

伏尾台の聖地となる場所へ
～はぐくむ～

伏尾台の聖地となる場所へ

- 伏尾台小学校跡地に子育て&地域コミュニティの中核施設を整備（通称：はぐのさと）

地域交通の新たなるかたちへ
～かわる～

地域交通の新たなるかたちへ

- 実用化を前提とした無人運転車両の実証実験を検討
- コミュニティバスを利用したネットワーク交通の整備を検討

ストック資産を活用したまちへ
～いかす～

ストック資産を活用したまちへ

- 空き家を活かした新たなまちづくりを検討

その他

- ほそごう学園との新たな連携を検討



テーマパーク構想とりまとめの 今後の流れについて



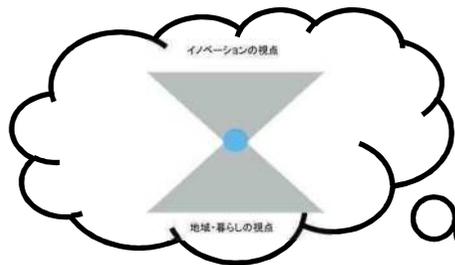
構想実現にあたって考慮する事項とは・・・

持続的にテーマパーク構想を実現させるためには、今後以下のような事項を考慮する必要があると考えます

「10万人総活躍」のできるまちづくりの実現



そのために、市民1人1人がどういった役割を果たすのか・・・



長期的視点(伏尾台地域の未来を考える)
+短期的視点(現在の暮らしの充実)

テーマパーク風に言う
とキャスト・クルー

テーマパーク構想は長
期的視点がベースとな
る



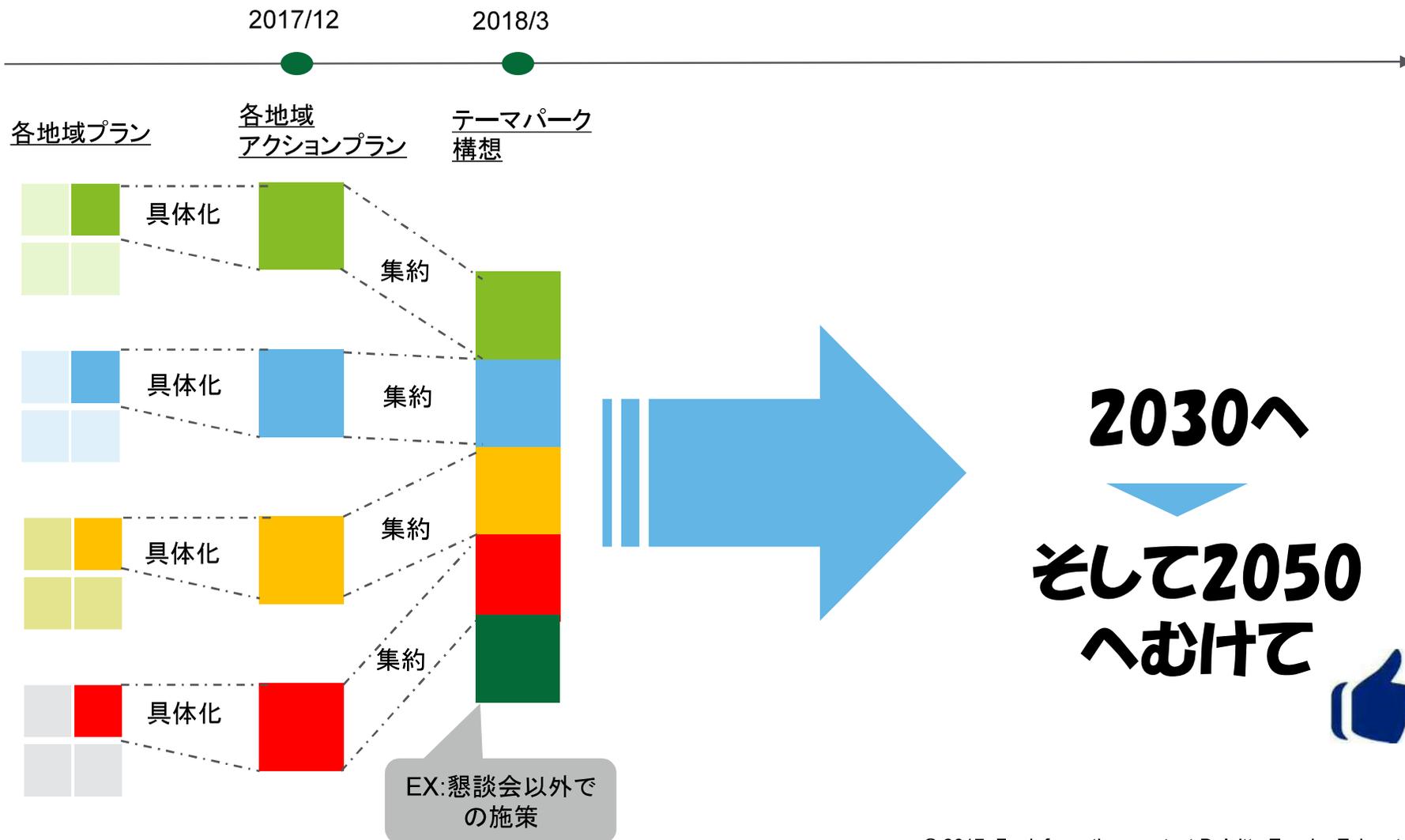
そのためには行政主
導ではなく、民間主
導の持続的仕組みが今
後必要

テーマパークの土台となる市民の役割(ソフト)を
集約し、そこにあるべき姿「ハード」を描く

ソフトをベースとした地
域の意識醸成をベー
スにしなければ失敗に
繋がる恐れ・・・

今後の流れ

テーマパーク構想という統一コンセプトを本年度中にとりまとめて、2030年以降のまちづくりビジョンを基礎とする予定です



デロイト トーマツ グループは日本におけるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームおよびそのグループ法人(有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人およびDT 弁護士 法人を含む)の総称です。デロイト トーマツ グループは日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、法務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー等を提供しています。また、国内約40都市に約9,400名の専門家(公認会計士、税理士、弁護士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)は、監査、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー サービス、リスク アドバイザリー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスをFortune Global 500® の8割の企業に提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約245,000名の専門家については、[Facebook](#)、[LinkedIn](#)、[Twitter](#)もご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイト トウシュ トーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数を指します。DTTLおよび各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL(または“Deloitte Global”)はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitteのメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的な事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

第3回 有識者等懇談会（伏尾台地域） （議事要旨）

日 時：平成29年11月13日（月）14：00～16：00

場 所：池田市上下水道部庁舎3階研修室

出席者：テーマパーク構想ディレクター 後藤健太

地域住民等 6人

池田市 倉田市長、藤田副市長、総合政策部長、都市建設部長、管理部長、
教育部長

1. 倉田市長より挨拶

2. 前回の懇談会の振り返り

- 今回の議論をまとめ、テーマパーク構想に落とし込むことを目標にしたい。
- 1、2回目の懇談会の内容を取りまとめたものに対して、皆様のご意見、また各地域の反応をお聞かせいただきたい。
- 横串となるコンセプトの設定が必要だという認識で、現段階のテーマパーク構想のコンセプトをご紹介したい。コンセプトとなる色とキーワードをアンケートでお答えいただき、皆様の声を反映していきたい。
- 懇談会自体は決定の場として開催されているものではないが、大きな方向性のコンセンサスは得ておきたい。
- 地域コンセプト：伏尾台創生プラン2020に記載してある子育てにやさしいまち、みんなが住みたくなるまちであり、伏尾台の強みは、地域コミュニティ力、アクティブシニアの存在、ほそごう学園独自の教育方針であり、また現状の具体的な主要な課題は、伏尾台小学校と池田北高校の跡地の活用、地域内外への交通の利便性の向上や、潜在的な空き家の増加に対する対策などである。伏尾台地域のめざす目的地は定住人口の増加、それまでの主要施策として、はぐのさと構想の推進、空き家等の有効活用、新たな地域交通の導入などである、そのターゲットは、地域内外の子育て世代、地域住民（地域高齢者）であり、キーワードに関しては、前回までに「ゴールドタウン」、「はぐくむ」「接続性」などをまとめた。

3. 前回の懇談会を受けた地域の声について

<意見>

- 本日は伏尾台創生会議の交通の利便性を考える作業部会の部会長、はぐのさと副会長に傍聴いただいている。
- 伏尾台には21の公園があり、その中の6大公園についての座談会を実施した。住民が住

んでいて良かったと思える、また外部の方が住んでみたくなるようなテーマのある公園を作ることが大切である。ポイントは2つで「テーマ別の公園を作ること」「コミュニティビジネスに繋げる公園にすること」である。例えば、「メリーゴーランドのある公園」「高齢者の健康づくりのための公園」「野遊びのできる公園」「アウトドアのできる公園」「ドッグランのできる公園」などである。これらに関して、子育て世代の方、ご高齢の方など様々な方に意見を聞くことが当面のアクションプランだと考えている。市と創生会議が協力して公園ビジネスができないかと考えている。

- スマイルキッチン等を通じて食の問題を解決していくことが大事である。あわせて、空き家などを飲食店・居酒屋にして、夜も集まれる場所を作ること大切だと考えている。
- 保護者が安心して働くことができ、地域が子どもを育てるという日本一の地域にしたい。
- 留学生向けに池田北高校でチャイニーズスクールができないかと考えている。アメリカンスクール等はあるが、認識している範囲でチャイニーズスクールはない。同じ漢字という文字を使用しており、実現不可能ではないと思う。

4. テーマパーク構想のコンセプトについて

- テーマパーク構想を取りまとめるにあたり、横串の役割が必要なため、全地域を「○○のテーマパーク」で統一しようと考えている。
- テーマコンセプトは「子ども育む輝きのテーマパーク」と考えている。
- イメージカラーについては金（ゴールド）はどうか。根拠は「ゴールドタウン」「輝くアクティブシニア」である。キーフレーズとして「はぐくむ」は外せないと考えている。これについて意見を聞きたい。

<意見>

- カラーは「スカイブルー」。澄み切った青空のイメージ。
- フレーズは「認め合う」。色々な世代や個性のある人々が認め合うことによって、澄み切った空にできればと思う。
- カラーは「虹色」。伏尾台から年に数回、五月山の方に見える虹が素晴らしい。また、1つの色ではなく、赤ちゃんからお年寄りまで様々な人が集うという意味もある。
- フレーズは「はぐくむ」。はぐのさとを命名した。
- カラーは「七色」。一つの色ではない。いろいろな人が交流している。
- キーワードは「ハグ（はぐ）」
- カラーは「黄緑色」。若葉の色で若々しく伸びていくような、伏尾台は「初夏」のイメージであって欲しい。
- キーワードは「はぐくむ」が相応しいと考えている。
- なぜ色を決めなければならないのかというところについては少し疑問がある。地域のことを考えた時にカラーよりはワードの方が分かりやすいと思う。

- キーワードは地域でも話し合われた「はぐくむ」。池田の中の教育のまちが伏尾台というイメージで良いと考えている。
- カラーは「青」も良いし、「緑」も良いと考えている。
- キーワードは「はぐくむ」は一方向的なイメージがある。双方向である「共生」という方向も大事だと思う。テーマは「命」ではないか。
- 「ほそごう学園」の教育方針が池田市の魅力（地域の強み）に繋がっているということが希望的観測で終わらないようにしていきたい。ほそごう学園のチャレンジ精神に期待したい。
- ドッグラン公園はなかなか難しい。箕面市で騒音、におい、交通などの理由により失敗しており、そのような問題を抱えていることも覚えておいてほしい。池田は伏尾台で何とか実現できないかということを考えてみたい。

◇伏尾台の聖地となる場所へ

<意見>

- 子供と大人が集える場所として、まずカフェと子供図書館から着手していきたい。内装費を積み立て、数年後には1,000万円ほど貯蓄できたらと考えている。
- 池田北高校は、まずイベントを中心に活用することで地域での関心を高めていきたい。
- 地域内交通もはぐのさとと連動しているということを忘れないで欲しい。

◇地域交通の新たなるかたちへ

<意見>

- 地域面からは運転手のいない車両に乗ること自体に拒否反応があるとの声も聞いた。
- 自動運転と無人運転はそもそも違って、自動運転の方がレベルとしては低く、自動運転の先に無人運転がある。SAEレベルという0から5（5が高）の世界評価基準があるが、自動運転の4、5レベルが無人運転になる。
- 伏尾台創生会議でも意見として挙がったが、希望レベルであった。しかし、一筋縄ではいかないが、ぜひ試みていきたいと考えている。
- カーシェアリングは実証実験もされており、今後伸びてくる分野だと考えている。タクシー型と相乗り型に分かれるが、伏尾台に関しては相乗り型だと思う。しかし、事故が発生した場合、誰が責任をとるのかなど課題はいくつもある。
- 阪急バスと福祉バスがあれば、市街地には出やすい。
- 幹線道路までどうやって出るのか、またコミュニティバスなどを運用した場合、採算がとれるのかが課題である。
- door to doorの交通の整備が重要と考えている。その一環として自動運転があっても良いのではないかと考えている。
- まず地域内で完結する社会を作ることが大切である。その上で、外から人が来るよう、

魅力のあるまちづくりをしていく必要がある。

- 地域内交通に関し、2020年に向けて法整備が進んでいく。当初は夢物語のようにも語った無人タクシーだが、今後もトーンダウンせずにめざしていきたいと考えている。

◇ストック資産を活用したまちへ

<意見>

- 空き家オーナーの意向（どのような使い方を望むか）を確認することが大切である。
- 売却・賃貸のお手伝いをしていきたいが、その中で住む人が魅力を感じるようなソフト・ハード面でのアピールの仕方を考えていく必要がある。
- 地域住民が「テーマパーク構想においていかれている」と感じることをないようにしたい。伏尾台には何ヶ所か建築協定が結ばれている箇所があり、それとの整合をとっていくことが大切だと考えている。また、場合によっては建築協定を変えていくことも大切だと考えている。
- 魅力あるまちづくりをして定住人口が増えると、自然と空き家が改善していくと考えられる。
- 空き家活用においては、合理的な仕組みづくりが大事であると考ええる。
- 公園内に民間施設を誘致し、その魅力を高めていくことなども考えられる。
- 特色あるほそごう学園を作ることで人を呼ぶことができるのではないかと。特色ある学校が地域の中でどのように認められ、どのように周知していくかは非常に重要だと思う。義務教育としての壁、公務員である教員の壁がある。
- ほそごう学園としては、伏尾台と細河の2つの地域に属しているという考え方があり、2つの地域を結ぶ役割を学校として果たしたいと考えている。
- 12月2日に空き家対策セミナーを開催予定であり、空き家の所有者45名に案内をした。
- 空き家となっている理由等については、今後調査を重ねていきたい。
- いつの時点で伏尾台から人が出ていくことになったのかを考えると、例えば社会人になった子どもが出ていくということもあり、決して子育てがしにくいまちではないのではないかと認識している。

5. テーマパーク構想とりまとめの今後の流れ

- 市民ひとりひとりが活躍できるまちというのが、テーマパーク構想を掲げたそもそものスタートであり、それぞれの役割を考えていかなければならない。
- 暮らしの充実という短期目線の話と、2030を見据えた長期目線の話、この2つの視点が必要である。暮らしの視点とイノベーションの視点の接点をどう作るかにおいて、様々なアイデアを出していただいた。
- ソフトとハードの事業があり、ハードに尽力しすぎると失敗してしまう可能性があり、伏尾台創生会議などでソフトな面をまとめている状況である。それに合わせてハード整

備を行うことで、コスト的な面で無駄がなくなると考えている。

- 将来的には民間主導の仕組みが必要であると考えている。

以上